

(別添4)

【うるま市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末や電子黒板を始めとするICT機器及びクラウドツールの利用により、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るとともに印刷作業など教師負担の軽減を目指す。

端末等を活用することで子供が自身にとって最適な学びに取り組むことができるようにするとともに電子黒板やクラウド等を活用して多様な他者と交流し、学びを深めることができるよう学校長のリーダーシップの下、教育DXを推進する。

また、児童生徒の学習履歴などデータ利活用により、全ての子供が適切な教育を受けられる環境の整備を行う。

2. GIGA 第一期の総括

授業や校務、家庭との連携等において、デジタル及びクラウドを活用した取り組みが広がった。

授業や校務では、コロナ禍で試行錯誤を行い実施したオンライン授業やオンライン会議については、現在、どの学校においても必要に応じてすぐに実施できるようになり、1人1台端末の活用については年々取り組みが広がっており、授業だけでなく、委員会活動や学校行事など様々な場面での活用が見られるようになった。

家庭との連携では、端末を持ち帰り家庭学習でAIドリルを活用した取り組みが行われるようになった。

一方で、学校や学年、教師間で端末活用に差が見られるなどの課題も明らかとなった。

今後は学習者を主体とした授業づくりの推進及びその道具としての端末活用を更に広げ深めていくとともにAIドリルや学習履歴等を生かした取り組みがどの学校でも行われることを目指す。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末活用を前提として、端末の整備・更新により1人1台端末の環境を引き続き維持する。

校内研修やICT支援員による支援の実施により、ICTに関する研修を受講する教員数を増やし、端末を文房具として日常的に活用する環境の構築を目指す。

また、ICTの強みを生かして授業において児童生徒が自ら調べ、考えをまとめて発表する場面を設定することや教職員と児童生徒、児童生徒同士が他者参照しながら学習を進めることができる環境、児童生徒が自分の特性や理解度、進度に合わせて課題に取り組むことのできる環境の整備を行う。

1人1台端末を活用した学びの保障については、端末を活用した教育相談や不登校児童生徒への支援、日本語以外を母国語とする児童生徒への学習活動等の支援に取り組んでいく。併せて、特別支援教育においては子供の特性に合わせた活用や合理的な配慮を要する児童生徒への支援の一つとしての活用も進めていく。